

地域再生計画名称		総合戦略の位置づけ					事業目的・概要						
周遊・通年型観光につなげるプロモーション		基本目標2 高萩市への新しい人の流れをつくる					市道・林道に市内観光地や主要施設への観光周遊道路としての役割を付加させ、体験型観光施設へ誘導する道路ネットワークの形成のため、市道・林道を一体的に整備するほか、各種体験事業により、観光客の滞在時間を延ばし、交流人口の拡大を図る。						
交付金対象事業名称		事業開始		事業終期									
地方創生道整備推進交付金		令和2年4月		令和7年3月									
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	高萩アウトドアフィールドで実施する体験メニューの年間利用者	1,000人	R 1	1,600人	R 4	1,892人	2,000人		R 6	○		指標総数
			基準年度	年度	中間実績	基準年度							
	指標2	1年当たりの木材搬出量	749m <sup>3</sup>	R 1	1,127m <sup>3</sup>	R 4	0m <sup>3</sup>	1,649m <sup>3</sup>	R 6	○	5	4	令和4年度は、改良工事による通行止めにより木材の搬出が実施できなかったため、単年度達成率0%であるが、目標としている総搬出量6,034m <sup>3</sup> を令和3年度時点で達成している。(参考 令和3年度時点での実績値7437.4m <sup>3</sup> )
	指標3	観光の活性化(年間観光入込客数の増加)	310,100人	H30	382,000人	R 4	314,200人	418,000人	R 6	×	新型コロナウイルス感染症が大きく影響し、中間目標値を67,900人下回った。(単年度達成率82.2%)最終目標まで103,900人の増が必要であることから目標達成が厳しい状況である。		
	指標4	間伐の推進(間伐面積の拡大)	16.15ha	H26～H30	39.46ha	H29～R3	45.81ha	59.51ha	R2～R6	○	中間目標値を上回っており、最終目標値を達成する見込みである。		
指標5	創業の推進(山間地域における創業件数の増加)	1件	H26～H30	2件	H29～R3	4件	3件	R2～R6	○	中間目標値を上回っており、最終目標値を達成する見込みである。			
②事業の進捗状況		整備量(その他の事業では取組内容)			事業の進捗状況に関する評価								
		事業名	計画	中間年度(H・R)	最終実績見込み								
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業(整備延長)		8,900	1,949	6,951	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、21%と遅れが伺えるため、当初見込んだ事業効果を確保することを踏まえ、計画の見直しを検討する。引き続き、計画に即した整備を目指していく。							
	林道整備事業(整備延長)		474m	272.5m	474m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約57%となっており、引き続き整備を進めることにより、令和5年度末で進捗率100%を達成する見込みである。							
計画外で独自に実施した事業	高萩アウトドアフィールド事業		小山ダムの湖面を活用し、アクティビティ体験を提供することで、市内での滞留時間を延ばすほか、交流人口の拡大を図る。			小山ダム湖面の利活用だけではなく、ダム敷地内にグランピング施設やキャンプ場などの宿泊施設を併設(下記高萩グランピング事業)することで、滞留時間を延ばすとともに、高萩市の知名度向上にも繋がった。引続き事業を実施し、交流人口の拡大を図っていく。							
	高萩グランピング事業		小山ダムの敷地内に宿泊テントを設置し、グランピング体験を提供することで、市内での滞留時間を延ばすほか、交流人口の拡大を図る。			ダム敷地内の利活用だけではなく、小山ダム湖面を活用したアクティビティ体験(上記高萩アウトドアフィールド事業)を提供することで、滞留時間を延ばすとともに、高萩市の知名度向上にも繋がった。引続き事業を実施し、交流人口の拡大を図っていく。							
	地域資源活用事業		市内生息の蛸を地域資源と捉え、保全活動を実施するとともに、市外PR、イベント実施することで交流人口の拡大を図る。			地域資源(蛸)利活用し、毎年6月中旬頃に小山ダムにて蛸の観賞会を実施。高萩市の認知度向上のほか、参加者へ上記事業のPRにもなり、相乗効果が得られた。							
	スカウトフィールド活用事業		屋外体験活動施設(スカウトフィールド)での自然体験活動等を実施することで、施設の利活用を促進するほか、交流人口の拡大を図る。			ボーイスカウト日本連盟及び茨城県連盟、茨城県生涯学習課の参画の下、高萩スカウトフィールド活用事業実行委員会を設立し、具体的な活用内容などについて検討を行い、市内外の方に施設の利活用を促進した。引続き事業を実施し、交流人口の拡大を図っていく。							
③評価方法		高萩市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員長に対し、中間目標値の実現状況の説明を行い、評価・検討等を行った。											
④中間評価の公表方法		高萩市企画財政課のホームページに掲載											
⑤計画全体の総合評価		本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に行うことにより、市内観光地や主要施設への観光周遊道路としての役割を付加させ、体験型観光施設へ誘導する道路ネットワークの形成し、各種体験事業により観光客の滞在時間を延ばし、交流人口の拡大を図ることを目的としている。指標5つのうち、中間目標未達成の2つのKPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け目標が過大となってしまった。最終目標は数値を追うのではなく、ソフトランディングを図ることも視野に入れた方がいいと思料される。整備の進捗状況から、観光客受入体制のための整備は整いつつあると思われるため、事業の進捗管理を徹底し、計画内容を見直し効果的な改善を図ってほしい。											